【様式１】

令和３年６月１４日

令和２年度　特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
上尾市立尾山台小学校	上尾市教育委員会	公立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立尾山台小学校ウェブサイト 令和２年度特別の教育課程の自己評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/090121061801.html
学校関係者評価結果の公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立尾山台小学校ウェブサイト 令和２年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/090121061801.html
保護者評価結果の公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立尾山台小学校ウェブサイト 令和２年度特別の教育課程の保護者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/090121061801.html

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市では、これまでＡＬＴの配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週２９コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成３０年度から、小学校３・４学年で３５時間を、小学校５・６学年で７０時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校１・２年生においては、学校教育法施行規則第５１条に定められる授業時数以外で、年間１０時間程度の外国語活動を実施するほか、他教科の授業でＡＬＴを活用する「ＡＬＴアシスト授業」の実施により、ＡＬＴの「生きた英語」に触れる時間を週に１時間程度確保している。さらに外国語活動の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とＡＬＴが自由に会話を楽しむイングリッシュトークを実施するほか、日常的にＡＬＴと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア　小学校１・２学年において、１年生は年間３４時間、２年生は年間３５時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。

イ　本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

ア　小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

（３）特例の適用開始日

令和２年４月１日

（４）取組の期間

令和４年３月３１日まで

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

（・計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない）

（２）実施状況に関する特記事項

・小学校第１・２学年において、１年生は年間３４時間、２年生は年間３５時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
・令和２年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため４０分授業であったが、ＡＬＴと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しもう」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
・校内研修を実施し、英語力や英語指導力の向上に努めた。
・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、英語活動充実のための検討委員会が開発した指導案及び教材を活用し、授業研究会を開催した。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

（・実施している
・実施していない）

＜特記事項＞

・学校だより、学年だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を情報発信し

た。
・学校運営協議会では、英語教育の取組を紹介した。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中９年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校は学校課題研究として「生き生きと学び、自分の思いや考えたことを伝え合うことができる児童の育成～『書くこと』の言語活動の充実を通して～」を研究主題とし、国語科を中心に研究を進めているが、課題として、自ら考え、その考えを表現することを苦手とする児童が多いと捉えている。本校の英語活動実態調査・意識調査の結果を分析すると、「英語活動の時間が好きか」の項目で「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童が 80%、一方「担任やＡＬＴの質問に、簡単な英語で答えたり、自分の考えを伝えようとしたりしているか」の項目で「いつもしている」が 31%、「時々している」が 50%という数値となった。このことからも、学習への関心・意欲があっても、表現に躊躇する児童がいると分かる。

今後の課題としては、躊躇せず、進んで自分の思いを英語で表現しようとする児童を育てると同時に、英語活動の時間をより魅力的な時間にして、英語への興味関心を高めることが挙げられる。小学校の導入段階では、正しい英語にこだわりすぎず、「触れよう・慣れよう・慣れ親しもう」を合い言葉に、ボディランゲージも交えて外国語を楽しんで表現しようとする授業の雰囲気作りが大切である。現段階では、コロナ禍でマスクを着用したり、動きが制限されたりしているが、指導者は「４つのコミュニケーションルール」（アイコンタクト・クリアヴォイス・スマイル・グッドレスポンス）を意識すると同時に、児童へも可能な限りこれらのルールを意識させる。どんな回答も否定されることなく受け入れられる安心感の中、自信をもって自己を表現できる授業を展開し、課題の改善を目指す。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ＡＬＴが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。

また、ＡＬＴの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、授業中だけでなく、休み時間でもＡＬＴと積極的にコミュニケーションを取る児童の姿が見られる。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、互いの考えや気持ちを伝え合おうする意識やコミュニケーション能力は着実に育まれており、特例校の取組の効果が表れている。

本校は、学校教育目標を「確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成～明るい子、考える子、たくましい子～」としている。英語活動の時間でも、相手意識をもって考えたり話したり、自分の意見をもって互いに高め合ったりする児童を育

成することで、目指す児童像にせまっていくことが課題である。

５．課題の改善のための取組の方向性

４に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。